

< 参考資料 >

平成 27 年度予算編成の基本的な考え方

平成 26 年 10 月

1. 前提条件

(1) 目指す市政の目標

総合力ナンバーワンを目指したまちづくり

- ・市民の幸せや子ども達の将来のために、バランスの取れた「総合力ナンバーワンのまちづくり」に力強くチャレンジ

安定した行財政基盤を確立すること

- ・国の合併特例による支援措置の縮小・満了後にも十分に運営できる行政の体質、組織のあり方、財政の仕組みづくりを構築

将来を見据えた成長・発展の基盤づくり

- ・人材育成、産業の活性化、子育て、教育、地域づくりなど、次の時代への基礎となるもの、市民の安全・安心や生活に直結した事業は、その熟度に応じて着実に実施

(2) 平成 27 年度の財政状況

市税収入は、固定資産税の評価替（家屋）の影響により、平成 26 年度と比較して減額が見込まれ、市民税についても景気の動向により不安定要素があるため、非常に不透明な状況にある。

歳出は、引き続き公共施設の見直し、施設の経年劣化等により、工事費・修繕料などが平成 26 年度並みの高水準で見込まれること及び扶助費の増加等により、全体としては、メリハリを付けるためにも類似事業や継続事業の統廃合等、更なる精査が必要となる。

2. 基本方針

平成 27 年度の予算編成は、本市の財政状況と将来の見通しを踏まえ、次に示す基本方針により編成する。

(1) 総合計画の着実な推進

後期基本計画で取り組む事業の着実な実施

- ・実施計画等を踏まえた適切な事業内容とする。

(2) 市民生活重視の予算

市民の目線で予算編成

- ・市民サービスの維持・向上に直結した事業を優先する。

(3) 公共施設の見直しの推進

効率的・効果的な公共施設全体の活用推進

- ・見直し方針に沿った対応を平成 27 年度予算に反映させる。

(4) 持続可能な健全財政の構築

身の丈予算

- ・ 予算総額は、歳入の一般財源総額に見合った規模を基本とし、基金の取り崩しや市債に極力頼らないものとする。

普通建設事業費、維持補修費の優先順位の徹底

- ・ 限られた財源の中、防災・減災対策や市民生活に直結したものを優先。
- ##### 決算ベースでの適正な予算見積もり
- ・ 平成 25 年度決算を踏まえ、歳出予算は決算額をもとに見積もること。

(5) 行財政改革の徹底推進

事業の見直し

- ・ 全ての事業をゼロから見直すことで、事業の統廃合等を進め、真に必要な事業への「選択と集中」を図る。
- ・ 事業内活動においても、前年度の評価を生かし、より効率的かつ効果的な事業執行に向け、業務の見直しを推進する。

内部管理経費等の見直し

- ・ 総人件費（賃金を含む）の抑制
- ・ 物件費等の管理経費の適切な見積り
- ・ 団体等への負担金や各種補助金の見直し

3 . 平成 2 7 年度優先施策

(1)安全・安心のための防災・減災対策

（ 4 次想定・静岡モデルによる地震・津波対策、消防救急無線デジタル化 ）

(2)産業の活性化対策

（ スマート I C の設置推進、食の拠点施設の整備 ）

(3)将来を担う子どもたちへの支援

（ 待機児童対策（全幼稚園預かり保育の実施等）、小中一貫教育の推進 ）

(4)地域福祉・支え合いの推進

（ 障害者福祉施設の整備支援、認知症対策の推進 ）

(5)公共施設の見直し

（（仮称）豊岡総合会館・（仮称）豊浜コミュニティセンターの整備）

(6)合併 10 周年の総括と新たな取り組み

（ 防犯灯 L E D 化、地区活動拠点施設の再構築・一元化 ）